

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600420		
法人名	医療法人社団 延山会		
事業所名	グループホーム CoCoすみかわ		
所在地	北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号 (電話)0144-67-3111		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月4日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 5月 18日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	12人	常勤 4人、非常勤 8人、常勤換算	4.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~46,500円	その他の経費(月額)	水道・光熱費は家賃に含む
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 450円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	6名	男性 0名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 87.5歳	最低 82歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医)延山会 苫小牧澄川病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にあり、同一の医療法人が運営する澄川病院、介護老人保健施設、保育園に隣接する1ユニット平屋建て、定員6名のグループホームで、平成12年に市内で初めて設置された。同一法人内の協力・支援体制が整い、行事や研修、サークル活動など様々な面で交流しており、利用者や家族の安心にも繋がっている。詳細なアセスメントを基に介護計画が作られており、スケジュールにそった計画的な見直しが行われている。また、マニュアルや契約書類が整備され、職員の教育も行き届いている。少人数で職員と利用者の触れ合いが深く、お互いの信頼関係が築かれている。家族会を設置したり、法人内に苦情の受付窓口を設けるなど家族意見の反映にも力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の結果に基づき、同業者との交流を進めたり居室の馴染みやすさに取り組むなど成果をあげている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価シートは職員各自が記入し意見を集約して、ホーム長を中心に自己評価を作成している。勉強会も行っているが、ガイドブックを活用して理解を深めるには至っていないので、ガイドブックを活用したり勉強会を行うなど一層の理解を深められるよう期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域包括センター、市の職員、住民代表、家族代表、協力医も参加している。近況報告のほか情報公表や外部評価の結果、研修参加報告など多岐にわたり話し合いを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	5月、8月、12月に家族会を開催し、家族の意見を集約する機会を作っている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示しているほか、隣接病院内に「総合相談センター」を設け、日常の相談以外の苦情を受け付ける窓口としている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、夏祭りや町の掃除に参加している。隣接地で行われる法人の夏祭りに地域の方が大勢参加している。毎月、隣の保育園の児童の訪問を受けており、大正琴やフラダンスのボランティアも受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設時に職員が一緒に作り上げたものである。ホーム名「CoCo」の意味はCommunity、Cooperationが元で、地域密着そのものである。基本理念の中に「地域社会の一員として地域社会に溶け込み・・・」の文言もある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念および介護理念を事務所や玄関などホームの見やすいところに掲げ、パンフレットにも2ページにわたり記載している。カンファレンスや勉強会などの際に理念に立ち返って確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りや町の掃除に参加している。隣接地で行われる法人の夏祭りに地域の方が大勢参加している。毎月、隣の保育園の児童の訪問を受けており、大正琴やフラダンスのボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価シートは職員各自が記入し意見を集約して、ホーム長を中心に自己評価を作成している。勉強会も行っているが、ガイドブックを活用して理解を深めるには至っていない。前年の外部評価の結果に基づき、同業者との交流を進めたり居室の馴染みやすさに取り組むなど成果をあげている。		自己評価項目の項目ごとの理解について、各職員が作成時にガイドブックを活用したり勉強会を行うなど一層の理解を深められるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域包括センター、市の職員、住民代表、家族代表、協力医なども参加している。近況報告のほか情報公表や外部評価の結果、研修参加報告など多岐にわたり話し合いを行っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の職員が参加するほか、市内で第1号のグループホームとして市と親密な関係にある。職員が役員を務めるグループホーム連絡会の研修会に、市の職員が講師として参加しており、運営に関する指導を受けたり情報交換が行なえている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ほとんどの家族の来訪があり、利用者の様子を報告している。家族会や運営推進会議での報告、電話での個別の報告、ケアプラン作成時の相談など頻繁に連絡を取り合っている。年に4回、写真をふんだんに載せ、情報も充実したお便りを作成し送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>5月、8月、12月に家族会を開催し、家族の意見を集約する機会を作っている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示しているほか、隣接病院内に「総合相談センター」を設け、日常の相談以外の苦情を受け付ける窓口としている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の退職や異動は年に1名程度と少なく、過去に職員の交代でダメージが見られたケースはほとんどない。引継ぎ時には1ヶ月程度の重複期間を設け、スムーズに引継ぎができるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム独自で2ヶ月に1度内部研修を行っているほか、法人内の各種委員会（感染症、事故、個人情報保護など）の内部研修も受講している。外部研修も含めて各職員が偏りなく受講できるようにチェックしている。外部研修の結果は報告会を開き情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の世話人として研修を企画するなど、他のグループホームと情報交換を行っている。職員同士の交流については、連絡会の研修で新たに職員同士がグループ討論する事例検討会を開催している。その研修にホームからも5名程度研修に参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前になるべく本人が見学した上で入居してもらっている。入院中などの理由で本人が来れない場合は、ホーム長や職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。利用開始後も帰宅願望が強い場合は、安心してもらうよう役割を持ってもらったり、なるべく関わる時間を多くするなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の介護度が進むにつれて仕事を手伝ってくれる場面は減ってきたが、昔話をしてくれたり、おやつと一緒に食べて喜びを分かち合うなどの場面もある。入浴やトイレ介助で職員にお礼の言葉をかけてくれるなどお互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のしぐさや表情から思いや希望を把握するようにしている。利用開始時にはセンター方式による情報シートのほか、グループホーム独自の生活歴シートも作成し、利用者の情報を充実させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居当初、本人の状態や医療情報、関係者の情報などを収集し、詳細なアセスメントを基に作成担当者が介護計画案を作成し、その内容をカンファレンスに諮り完成させている。計画書を家族に説明する際に意向を再度確認し、修正も入れて同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画予定表を作成し、初期計画は1ヶ月後に見直し、状態が安定している場合は6ヶ月期間で見直し経過を把握している。見直しには小さなことも記録し、それらの情報も参考にカンファレンスで評価し、次の計画に繋げている。また状態が変化した場合は、その都度、関係者、家族と話し合い新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設協力病院と連携する中で、退院を早めて点滴などの適切な処置を行い、入院による心身機能のダメージに配慮している。また、併設の老人保健施設の行事に参加したり、施設の訪問理美容を利用するなどして法人内の機能を有効に活用し支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院が併設しているので、入居時に協力病院での受診を希望することが多い。月1回訪問診療のほか、必要に応じて随時受診し、個人の外来受診記録を基に情報交換を行い、家族にも結果を報告している。看護師であるホーム長が関係者と連携を密にして健康管理を行い、専門病院の受診時には同行し主治医に情報を提供している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に看取りに関する指針、ホームの対応を説明している。病状の変化が見られる場合に、家族、医師、関係者と早めに方針を話し合い、医療行為を含む詳細な内容を別紙で確認し同意書を得ている。その段階になった時はカンファレンスを頻繁に持ち、状態に即した看取り介護計画で対応を共有することを決めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いや排泄などの対応マニュアルがあり研修も行っている。特に排泄の対応にプライバシーが守られているかを注意している。個人情報などの書類は事務所で保管し、記録する時も注意を払っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>天気の良い時は散歩に出かけている。希望を伝える利用者が少ないので、職員が思いを計って、花見や展望台に出かける時もある。ラジオ体操、ビデオ、カルタ、お手玉などの遊びの中で利用者の表情を見ながら無理強いしないように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は病院で調理したものを用意しているが、朝食と夕食には利用者の食べたい物、また誕生日には本人の好きなものを献立に入れて職員が調理している。食事中はその人のペースに合わせた食事介助をし、会話を誘いながら時間をかけて支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週4回の態勢で、最低でも週2回は入浴を支援し、体調を見て曜日の変更やシャワー浴も行っている。入浴を嫌がる人にはその原因を探り、湯加減を本人に確かめてもらうなど気になる点を解決し安心して入れるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理を手伝ってもらい、小さなことにも感謝を伝えている。個人の好みを引きだし、おはじき、方言カルタ、昔の歌、塗り絵などをして過ごしている。毎月隣接する保育園児童の訪問を心待ちにし、タコ釣り、輪投げなどを保育児と一緒に遊び、楽しい交流になっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	数人で散歩に出かけているが、天候の影響や利用者の重度化もあり回数は少ない。受診時に周囲の花を見たり、併設施設の行事に参加するなどして週3回程度は外出している。		暖かい時期にベランダで日光浴を楽しむ頻度を増やし、重度化しても戸外の空気に触れ、庭の花や野菜を目で楽しみ、向かい側にある保育園児の話し声を聞いて和むような環境を最大限に生かすような取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを取り付け、日中は鍵をかけていない。外を見ると不安になるので内ドアをステンドガラス風の戸に工夫している。現在は外に出してしまう利用者はいないが、併設機関と連携し安全に配慮し見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>日中、夜間を想定した法人全体の合同避難訓練を年に2回実施し、ホーム内でも勉強会でシミュレーションをしている。法人内の連絡網のほか、災害時・行方不明時などに町内会や警察の協力が得られる体制を作り、外部の関係機関も加えた連絡網を作り緊急時に備えている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人の生活アセスメントシートに食事量、水分量を記録し把握している。過不足には補食や主食を調整し、水分量も確実に摂れるように声かけや介助などとして努力している。朝食・夕食の献立表は年に1~2回病院の管理栄養士にチェックしてもらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間、台所を中心にした共有空間は広く、落ち着いた雰囲気である。天窓から自然の光が入り込み、大きくとったベランダの窓からは庭の花などが楽しめるような環境への工夫が見られる。家庭的な古い調度品が置かれ、動物や子供の縫いぐるみで温かみを添えている。壁には季節の装飾が品よく飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間を中心に少し奥まったところに居室があり、各居室には洗面台とクローゼットが備え付けられている。自宅で使用していた整理タンス、ソファなどが持ち込まれ、仏壇、時計、テレビ、人形、家族の写真、花の装飾品などが配置され落ち着いた雰囲気になっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。